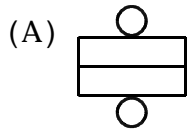


鎌田正勝著「話を聴く時の位置」池田学園総合誌「学び」第42号、

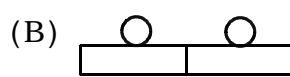
池田学園本部 2011年1月1日発行を読む

話を聴く時の位置

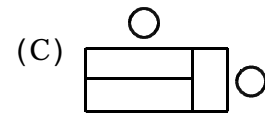
1. (1)話を聴く時は、大きく分けて3つあります。



向き合って



寄り添って



斜めになって

(2)(A)は尋問型、面接型で、相手をきちんと観察することができるが、相手は緊張しやすい。

(3)(B)は同情型、共感型で、お互いの感情に入り込みやすく、相手の感情に巻き込まれる恐れがあります。

(4)(C)は相談型で、相手は緊張しないで話することができます。お互い必要に応じて、視線を相手に向けることができるから緊張することが少ないです。

(5)(C)が好ましいと思います。視線を相手に向けたくない時は、左右や上下に目をやったり外を見たりできます。

2. 私は、いつも、来談者さんと面接時間を1時間と約束しています。これ以上では、精神の集中を保つことが難しいからです。

3. カウンセリングの1事例

高校1年生の女性が来宅して「いじめにあっている」とのこと。面接を通して心を開き、通信教育に変わり、我が家でレポート作り、英検3級取得(私が面接員)優等生で卒業。現在は市内の大学に通っています。将来、心理療法士を目指しています。

4. (1)親は「子どもにまかせて見守る」ことが第一だと思います。

(2)第二に、「叱る」と「怒る」、「ほめる」と「おだてる」の違いを明確にし体得しておく必要があるでしょう。

(3)そうすれば、子どもは、のびのびと素直に成長するでしょう。

[コメント]

カウンセリング・センター足川分室の鎌田正勝先生の「話を聴く時の位置」は参考になる。塾生や保護者、部下と面談でも、今日から役立つ。是非、今日から実行を。